

# 独居高齢者の属性と生きがいについて

## 高齢者が自立できる社会形成に関する研究 その5

正会員○中原岳夫<sup>2</sup>  
同 久野貴行<sup>2</sup>  
同 友清貴和<sup>1</sup>  
同 山下 剛<sup>2</sup>

### 1. 研究の目的と方法

わが国では高齢者全般の増加はもとより、独居高齢者の割合はそれを上回るスピードで増加している。独居高齢者の生活は、往々にして暗いイメージで捉えられがちである。これまでの調査では、独居は気ままで良いという意見がある反面精神的な不安や寂しさを訴える人が多く、この傾向は特に女性に強いこと、また社会の一員として認知されていることが健康の秘けつであることなどが分かった。本研究は、前述の研究結果を踏まえ、独居高齢者が心身ともに健やかに生活を送っていくためには、どのような社会・生活環境を整備すべきかを、明らかにすることを目的としている。

そこで本編においては、独居高齢者が心身ともに健やかに生活を送っていく際に、必要な精神的な部分を支える「生きがい」に注目した。

研究の方法としては、まず独居高齢者の調査をもとに、

【表1】 調査地域及び調査結果の状況

| 鹿兒島市      |    | 産業構造 第1次:1.6 第2次:20 第3次:78.1                                       |             |             |             |
|-----------|----|--|-------------|-------------|-------------|
| 高齡化の状況    |    | 高齡者人口59,004人 高齡者世帯数41,831世帯<br>高齡化率11.0% 独居高齡者数11,481人 独居男女構成比17.0 |             |             |             |
| 独居高齡者の状況  | 男性 | 65~69歳 488人  | 70~74歳 358人 | 75~79歳 389人 | 80~84歳 435人 |
|           | 女性 | 3,202人   | 2,778人      | 2,191人      | 1,640人      |
| 調査結果(52人) | 男性 | 65~69歳 0人  | 70~74歳 2人   | 75~79歳 2人   | 80~84歳 3人   |
|           | 女性 | 9人   | 16人         | 8人          | 12人         |
| 指宿市       |    | 産業構造 第1次:21.7 第2次:16.7 第3次:61.6                                    |             |             |             |
| 高齡化の状況    |    | 高齡者人口 5,976人 高齡者世帯数 4,184世帯<br>高齡化率18.8% 独居高齡者数1,457人 独居男女構成比17.0  |             |             |             |
| 独居高齡者の状況  | 男性 | 65~69歳 46人   | 70~74歳 47人  | 75~79歳 52人  | 80~84歳 67人  |
|           | 女性 | 286人   | 343人        | 320人        | 296人        |
| 調査結果(51人) | 男性 | 65~69歳 1人  | 70~74歳 1人   | 75~79歳 5人   | 80~84歳 6人   |
|           | 女性 | 3人   | 12人         | 16人         | 7人          |
| 入来町       |    | 産業構造 第1次:25.0 第2次:3.9 第3次:42.1                                     |             |             |             |
| 高齡化の状況    |    | 高齡者人口 1,606人 高齡者世帯数 1,098世帯<br>高齡化率23.9% 独居高齡者数 313人 独居男女構成比17.7   |             |             |             |
| 独居高齡者の状況  | 男性 | 65~69歳 14人   | 70~74歳 8人   | 75~79歳 11人  | 80~84歳 14人  |
|           | 女性 | 79人  | 76人         | 61人         | 50人         |
| 調査結果(48人) | 男性 | 65~69歳 0人  | 70~74歳 4人   | 75~79歳 1人   | 80~84歳 3人   |
|           | 女性 | 10人  | 18人         | 9人          | 3人          |
| 薩摩町       |    | 産業構造 第1次:41.5 第2次:29.2 第3次:29.2                                    |             |             |             |
| 高齡化の状況    |    | 高齡者人口 1,364人 高齡者世帯数 996世帯<br>高齡化率25.8% 独居高齡者数269人 独居男女構成比15.0      |             |             |             |
| 独居高齡者の状況  | 男性 | 65~69歳 14人   | 70~74歳 9人   | 75~79歳 7人   | 80~84歳 5人   |
|           | 女性 | 62人  | 57人         | 72人         | 43人         |
| 調査結果(97人) | 男性 | 65~69歳 1人  | 70~74歳 6人   | 75~79歳 2人   | 80~84歳 0人   |
|           | 女性 | 11人  | 33人         | 21人         | 23人         |

生きがいの有無、生きがいの活動の場の違いから独居高齢者の生きがいについて把握する。次に、生きがいに影響を与えると考えられる独居高齢者の属性と、生きがいとの関係を分析する。まず、属性として、男女間で精神的な違いがみられることから性別を選び、また独居高齢者は身体的に衰退傾向にあるため健康状態と年齢、さらに、都市部と農村部の環境の違いが生きがいに与える影響を探るために在住地域を選び、生きがいとの関係を分析する。

### 2. 調査概要

鹿兒島市、指宿市、入来町、薩摩町において65才以上の独居高齢者を無作為に抽出し、ヒアリング調査を行った。調査地域、調査地域の高齡化の状況及び調査の集計は表1に示す。

### 3. 生きがいについての調査結果の分析

生きがいについては、「生きがい・趣味」として調査(複数回答)を行った。

まず、全体の86.2%が生きがいを持っている。独居高齢者の大半が生きがいを持った生活をしていることがわかる。

次に、これらの生きがいをその活動する場所の違いから分類した【表2】。自宅屋外型が53.5%、自宅室内型が46.5%と高く、自宅外室内型、自宅外屋外型の順になっている。なお、自宅近くで野菜作りや花の栽培などの園芸をしているものは、その日常的であるという判断から、自宅屋外型に分類した。

【表2】 活動する場による生きがいの分類

| 自宅室内型 | 自宅屋外型 | 自宅外室内型 | 自宅外屋外型 | その他  |    |        |    |      |    |
|-------|-------|--------|--------|------|----|--------|----|------|----|
| 読書・手芸 | 41    | 補裁・園芸  | 113    | 踊り   | 15 | ゲートボール | 21 | 対人関係 | 43 |
| 読書    | 17    | 庭いじり   | 12     | 温泉   | 12 | ミニゴルフ  | 13 | 旅行   | 7  |
| テレビ   | 12    | 盆栽     | 3      | 大正琴  | 12 | 藤参り    | 5  | 宗教   | 7  |
| 音楽    | 8     |        |        | パチンコ | 8  | その他    | 8  | その他  | 5  |
| 仕事    | 5     |        |        | 宗教   | 7  |        |    |      |    |
| 将棋・囲碁 | 4     |        |        | 老人会  | 5  |        |    |      |    |
| 生け花   | 4     |        |        | カラオケ | 5  |        |    |      |    |
| その他   | 39    |        |        | その他  | 41 |        |    |      |    |

### 4. 生きがいと独居高齢者の属性との分析

3で把握した独居高齢者の生きがいに影響を与えていると考えられる種々の属性と、生きがいとの関係を分析する。

A study on the pleasure of living of the old living alone in their community

A study on the forming society that the old can live themselves part6

Takayuki Hisano,Takeo Nakahara,Takazu Tomokiyo,Gow Yamashita

4-1. 性別と生きがいの関連

生きがいの有無と性別をクロスしてみると、女性のほうが生きがいがあると回答している割合がやや高くなっている【図1】。

場所による分類でみると、自宅室内型において男性が女性を上回っている。逆に自宅屋外型においては女性が男性を上回っている。

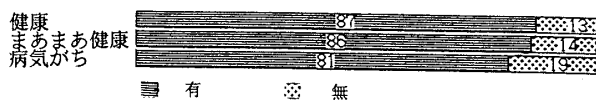


【図1】男女別にみる生きがいの有無

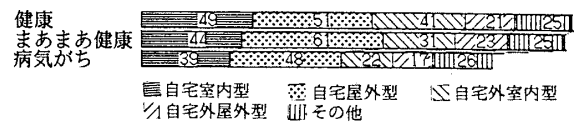
4-2. 健康状態と生きがいの関連

生きがいの有無でみると、健康であるほど生きがいを持っている割合が高くなっている【図2】。

場所による分類でみると、健康であるほど自宅室内型と自宅外室内型の割合が高くなっている。また自宅屋外型においてもややその傾向があるといえるが、自宅屋外型においては関連性はみられない【図3】。その理由にははっきりとはしないが、自宅屋外型は、庭や畑で園芸を過去からの習慣で行っている人が多いためと考えられる。



【図2】健康状態にみる生きがいの有無

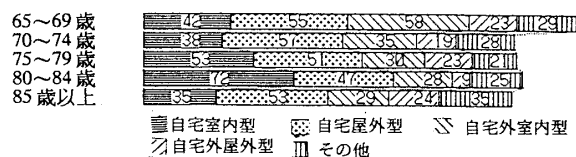


【図3】健康状態でみる生きがいの場

4-3. 年齢と生きがいの関連

生きがいの有無と年齢との関係はみられなかった。

場所による分類でみると、高齢になるにつれて自宅室内型の割合が増えている。逆に自宅屋外型と自宅外室内型は高齢になるにつれ減っている【図4】。独居高齢者は高齢になるにつれ生きがいを自宅の室内に移していく傾向にあると考察できる。



【図4】年齢別にみる生きがいの場

4-4. 在住地域と生きがいの関連

どの地域も約85%の人が何らかの生きがいを持っている。このことから、在住地域と生きがいの有無はあまり関連性がないといえる。

次に生きがいを持っている人について、その内容を大まかに分類して各市町ごとにみても、4市町に共通しているのは仕事と園芸、サークル活動である【表3】。このことから地域差に関係なく、独居高齢者にとって、この3項目が重要な位置にあると考察できる。

次に場所による分類を4市町別に比較してみると、自宅室内型については薩摩町で54.1%、指宿市で46.5%と高くなっている。

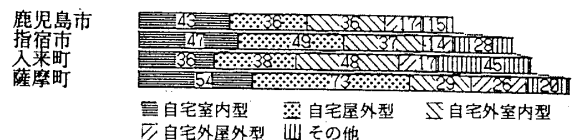
自宅屋外型と類型される生きがいの内容を持っていた人の割合が最も高かったのは薩摩町であった。これは薩摩町は農村的性格が極めて強いいため、自宅の庭や畑などで園芸を行っている人が多いためであるといえる。

一方、一番低かったのは都市的性格の強い鹿児島市であった。

自宅外室内型で最も高い割合を示したのは入来町、自宅外屋外型において、比較的高い割合を示したのは薩摩町であった【図5】。

【表3】在住地域別にみる生きがいの内容

|      |   |
|------|---|
| 鹿児島市 | ペット, サークル活動, 宗教活動, 手芸, 園芸, スポーツ, 仕事                     |
| 指宿市  | サークル活動, スポーツ, 室内趣味, 屋外趣味, 外出活動, 仕事, 園芸                  |
| 入来町  | 園芸, 室内趣味, サークル活動, 温泉, 仕事, 交友, スポーツ,                     |
| 薩摩町  | 手芸, 楽器演奏, 書道, 作詞, 読書, ラジオ・テレビ, スポーツ, 園芸, 温泉, 仕事, サークル活動 |



【図5】在住地域別にみる生きがいの場

5. まとめ

独居高齢者の生きがいについて、ある程度の把握はできた。独居高齢者の大半は生きがいを持っている。そしてその生きがいは、独居高齢者の持つ属性に影響を与えている。

本編の分析では、実際生きがいとは多岐にわたっており、多数の種類が存在する。そのため本編の場所に注目した分類だけでは、生きがいを把握するには十分ではないと考えられる。

今後は、生きがいを様々な視点から捉え、研究を進める必要がある。

<sup>1</sup> 鹿児島大学助教授 Assoc., Dept. of Architecture, Faculty of Engineering, Univ. of Kagoshima, Dr. Eng.  
<sup>2</sup> 鹿児島大学大学院 Graduate School, Univ. of Kagoshima